

香川大学教育学部附属小学校との連携による 大学院教員養成プログラムの開発

香川大学教育学部 学部研究開発プロジェクト
(執筆担当：米村耕平)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

Development of Teacher Training Program in Graduate School by Cooperation with
Elementary Schools Attached to the Faculty of Education, Kagawa University

Research Project Team for Faculty Development

(Contributor: Yonemura Kohei)

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

要 旨 本研究では、香川大学教育学部附属小学校と連携した大学院生を対象とした教育実習プログラムを設定し、体育授業の形成的授業評価得点の変化、教授技術（相互作用数）の変化、授業担当院生の反省内容の変化の3視点から検討を行った。その結果、形成的授業評価の変容から、授業担当院生が単元終盤に児童が満足する体育授業を展開できるようになり、授業の反省の中身についても、その視野の広がりや深まりから、授業担当院生の成長が確認できた。しかし、教授技術の一つである相互作用については、単元を通して十分な成果が上げられなかった。また、附属小教員のデータと比較することによって附属小教員と大学院生の授業実践力の差が明らかになった。

キーワード 体育教師教育、教育実習、大学院教員養成プログラム

1 はじめに

平成17年12月8日に中央教育審議会より「今後の教員養成・免許制度のあり方について（中間報告）」がまとめられた。その中で、特に大学院修士課程の問題点として次のようなことが指摘されている。

① 大学教員の研究領域の専門性に偏した授業が多く、学校現場が抱える課題に必ずしも十分対応していないこと

② 指導法が講義中心で、演習や実験、実習等が十分でないこと

③ 教職経験者が授業に当たっている例が少ない

④ 個別分野の学問的知識・能力が過度に重視される一方、学校現場での実践力・応用力などの教職としての高度専門性の育成がおろそかになっており本来期待されてきた機能（高度専門職業人養成）を十分果たしていない
また、国際的にも体育教師養成の在り方が

問題になっており (NASPE, 2002; ICSSPE, 1999, Siedentop & Tannehill, 2000), このような状況の中で優れた教師教育プログラムが提案されるようになった (Metzler & Tjeerdsma, 2000)。そのプログラムでは, ①教師教育として模擬授業やインターンシップ等のフィールドワークを重視し, ②大学・教育委員会・学校との連携を積極的に推進しており, ③学内・学外の実習に際して反省的授業法や様々な観察記録法を用いて科学的に教師の指導力向上に努めている。

このような国内外の現状をふまえ, 香川大学教育学部保健体育科講座内における学部での体育授業実践力 (注1) を高めるカリキュラムと大学院におけるカリキュラムについて比較すると次のような問題が指摘できる。

学部生に対する授業では, 教育実習前の準備的側面をもつ「保健体育科教育論」「保健体育科授業研究Ⅰ」が設定され, この授業を受けて学生は教育実習を行う。実習後は, 「保健体育授業研究Ⅱ」において, 実習で行った授業実践に対して反省的に振り返る授業が設定され, 教育実習を中心にした実習前, 実習, 実習後と授業実践力を高めるための一貫したカリキュラムが組まれている。一方, 大学院におけるカリキュラムでは, 講義, 演習の授業は設定されているものの, 実習という大学院生の授業実践力を高める上で重要なプログラムは存在していない。

そこで, 保健体育講座では, 大学院生の授業実践力高めるためのカリキュラムとして, 後期に開講される「保健体育科教育実践研究」と「保健体育科教育特別演習」との授業を関連づけ, 附属小学校の教員と連携して, 大学院生のための教育実習プログラムを実施することにした。

2 大学院生の教育実習プログラム

附属小学校との連携が決定されてから, 授業実践を担当する大学院生と附属小教員, 学部教員で打ち合わせを行い, 大学院生の教育実習プログラムを検討し, 次のようなプログラムを設

定した。

- ① 大学院生・附属小教員・学部教員の連携による授業づくり
 - ・マット運動 (器械運動領域) 8時間単元 (2005.11.1~2006.2.24)
- ② 大学院生と附属小教員による授業実践
 - ・5年生に対する同一授業単元
- ③ 授業実践の観察・分析
 - ・附属小教員, 大学教員の専門的立場による授業の観察・分析
 - ・大学院生 (4名) による体育授業の組織的観察法を用いた観察・分析
- ④ 授業の反省
 - ・授業担当の大学院生・附属小教員・学部教員が, 観察・分析されたデータをもとに授業の反省を行い, 次時の授業づくりの検討を行う。

※授業の内容については資料1の学習指導案を参照

3 大学院教育実習プログラムの有効性の検討

大学院教育実習プログラムの有効性を検討するために, 体育科教育学分野における先行研究の知見を参考にしながら以下の視点を設定した。

- ① 体育授業の形成的授業評価得点の変化: 単元の推移及び附属小教員との比較
毎授業後に体育授業の形成的授業評価票を配布し, 児童に記入してもらう。記入されたデータは当日中に集計する。
- ② 教授技術の変化: 相互作用数の量的・質的推移及び附属小教員との比較
対象授業の教師行動をビデオカメラで撮影し, 授業終了後VTRを観察し教師行動のデータを集計する。
- ③ 授業担当院生の反省内容の変化
反省会および授業担当院生の日誌について分析し, 反省内容の変化を検討する。

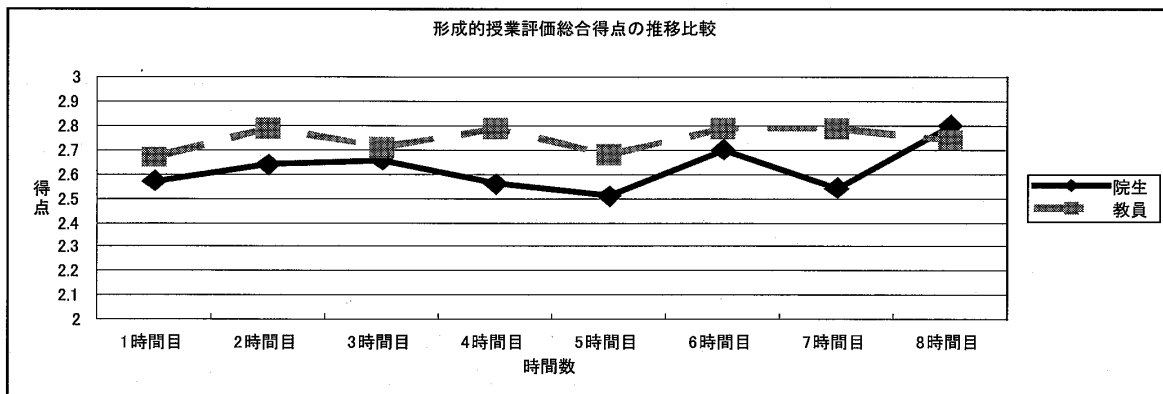
※形成的授業評価票における項目は資料2を, 相互作用行動観察カテゴリーについては資料3を参照。

4 結果

1) 体育授業の形成的授業評価得点の変化：単元の推移及び附属小教員との比較

図1～5で示したように、単元を通して形成的授業評価の総合得点、成果因子、意欲・関心因子、学び方因子、協力因子の得点は次のような傾向を示した。授業担当院生は、単元の前半・中盤では児童が満足する体育授業を展開できておらず、最終授業において児童が満足する授業を展開できていた。他方、附属小教員は、

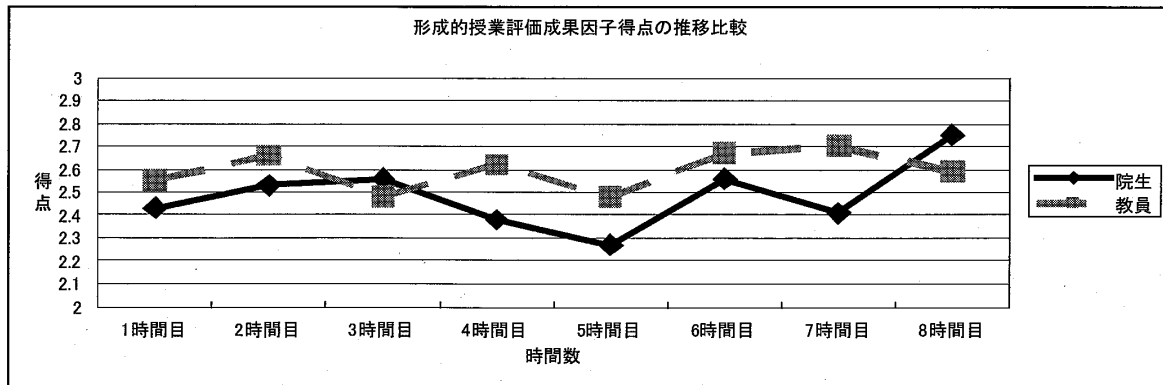
授業担当院生に比して単元を通して安定して高い得点を示し、児童が満足する体育授業が展開されていたといえよう。特に、いくつかの時間では、授業担当院生と附属小教員との得点に有意な差がみられ、この差が授業担当院生と附属小教員の授業実践力の差であると推察される。しかし、最終の授業においては、授業担当院生が附属小教員の得点を上回る、あるいは接近する得点を得ており、授業担当院生の授業実践力の成長をうかがわせるものである。



	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
院生	2.57	2.64	2.66	2.56	2.51	2.70	2.54	2.80
教員	2.67	2.79	2.71	2.79	2.68	2.79	2.79	2.74
t値	1.06	2.12*	0.75	2.74**	1.77*	1.33	2.95**	-0.85

* p<.05 ** p<.01

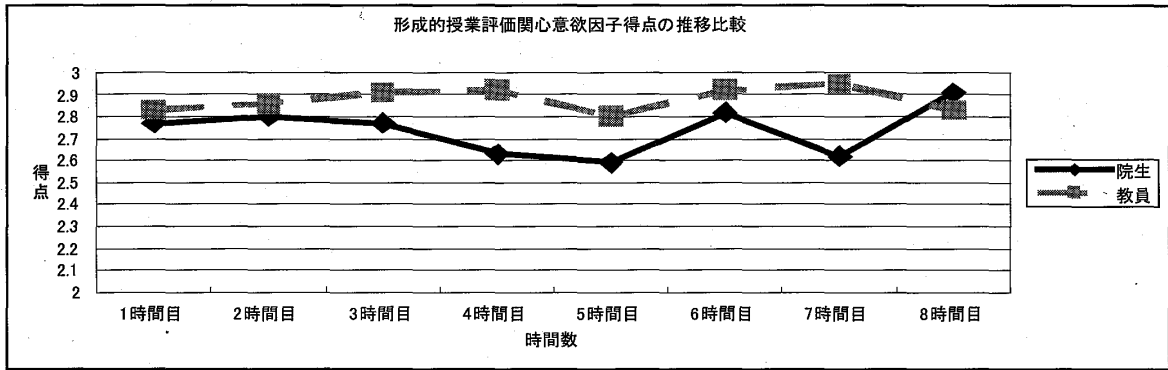
図1 形成的授業総合得点の推移比較



	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
院生	2.43	2.53	2.56	2.38	2.27	2.56	2.41	2.75
教員	2.55	2.66	2.48	2.62	2.48	2.67	2.70	2.59
t値	1.35	1.65	-0.93	2.68**	2.03*	1.14	3.09**	-1.94*

* p<.05 ** p<.01

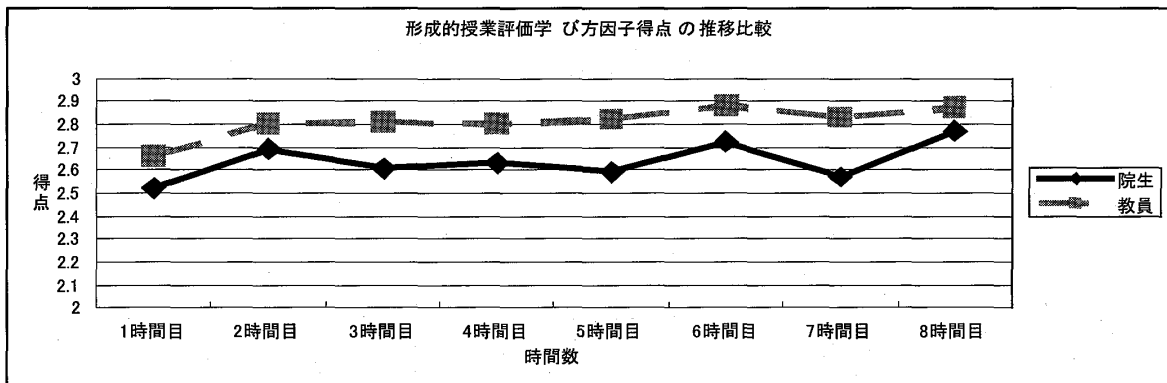
図2 形成的授業評価成果因子の推移比較



	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
院生	2.77	2.80	2.77	2.63	2.59	2.82	2.62	2.91
教員	2.83	2.86	2.91	2.92	2.80	2.92	2.95	2.83
t値	0.68	0.86	1.97*	3.67**	1.26	1.23	4.54**	-1.26

* p<.05 ** p<.01

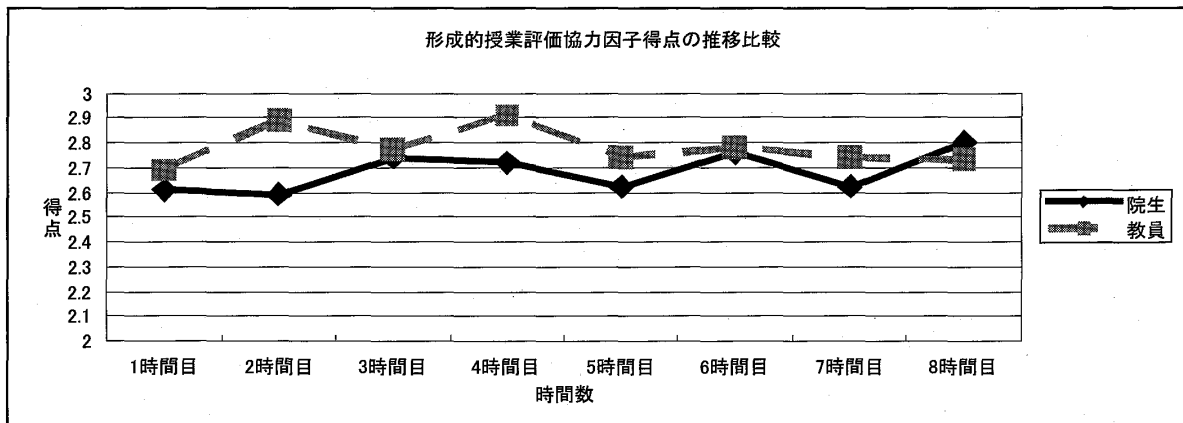
図3 形成的授業評価関心・意欲因子の推移比較



	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
院生	2.52	2.69	2.61	2.63	2.59	2.72	2.57	2.77
教員	2.66	2.80	2.81	2.80	2.82	2.88	2.83	2.87
t値	1.16	1.37	2.52**	2.06*	2.651**	1.93*	2.90**	1.39

* p<.05 ** p<.01

図4 形成的授業評価学び方因子の推移比較



	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
院生	2.61	2.59	2.74	2.72	2.62	2.76	2.62	2.8
教員	2.69	2.89	2.77	2.91	2.74	2.78	2.74	2.73
t値	0.91	3.97**	0.36	2.76**	1.25	0.20	1.17	-0.72

* p<.05 ** p<.01

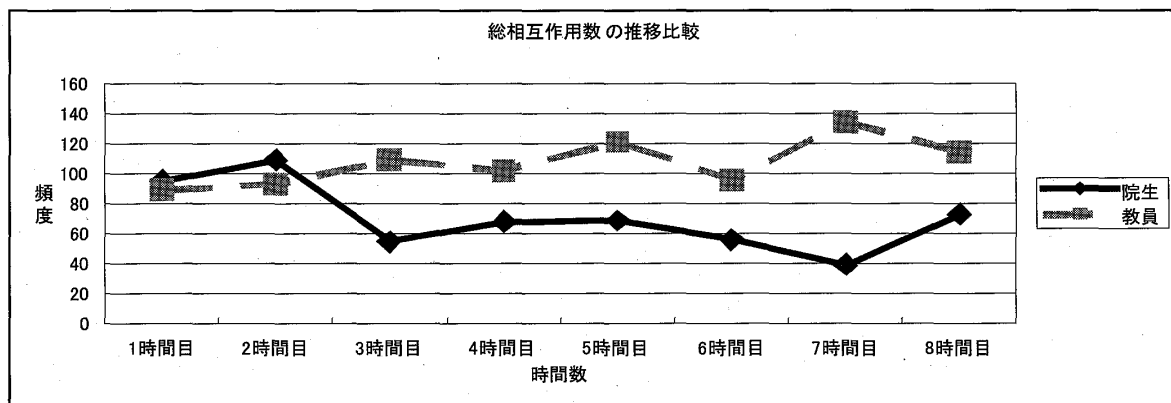
図5 形成的授業評価協力因子の推移比較

2) 教授技術の変化：相互作用数の量的・質的推移及び附属小教員との比較

図6～10に示したように単元を通して総相互作用数、肯定的フィードバック（以下FB）数、矯正FB数、一般的FB数、具体的FB数は次のような傾向を示した。

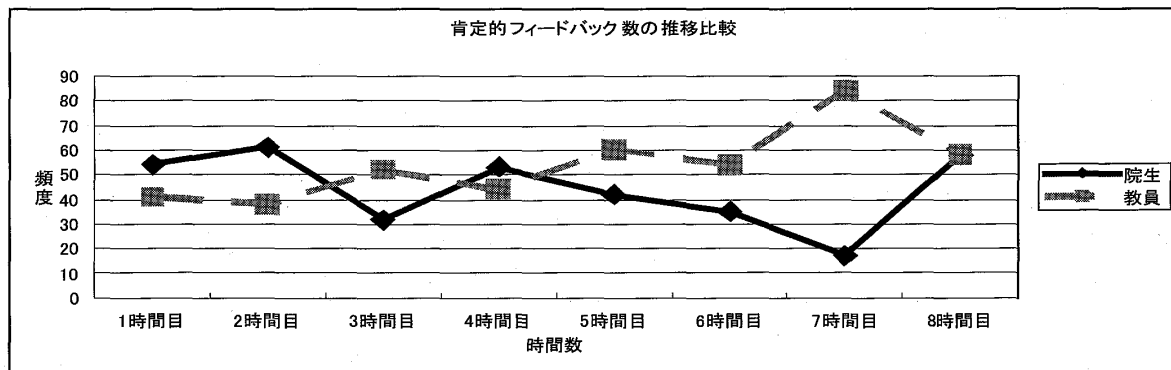
総相互作用数について授業担当院生は、単元の前半まで附属小教員と同程度の頻度を保っているが、中盤から後半にかけて附属小教員との差が開いていった。相互作用の質について検討すると、肯定的FBは単元中盤まで附属小教員と同程度を維持できていたが、最終授業を除く後半部分ではその差が開いている。矯正FBについては、単元中盤から後半まで附属小教員と差が開いた状態であった。一般的FBについ

ては肯定的FBと同様に単元の中盤まで維持できていたが、後半では最終授業を除き附属小教員との差が開いた。具体的FBについては、単元を通して附属小教員との間に差がみられた。この差が授業担当院生と附属小教員の相互作用に関する力の差であると推察される。特に、授業3時間目からは単技、連続技のポイント探しや、4時間目からはそのポイントをもとにした連続技の得点化といった認知的な学習が展開されたと同時に、授業担当院生の相互作用数が減少していった。これは、授業の内容がより発展的な課題へと移行したため、十分な教材に関する知識を持たない大学院生には、その指導が難しかったと考えられる。



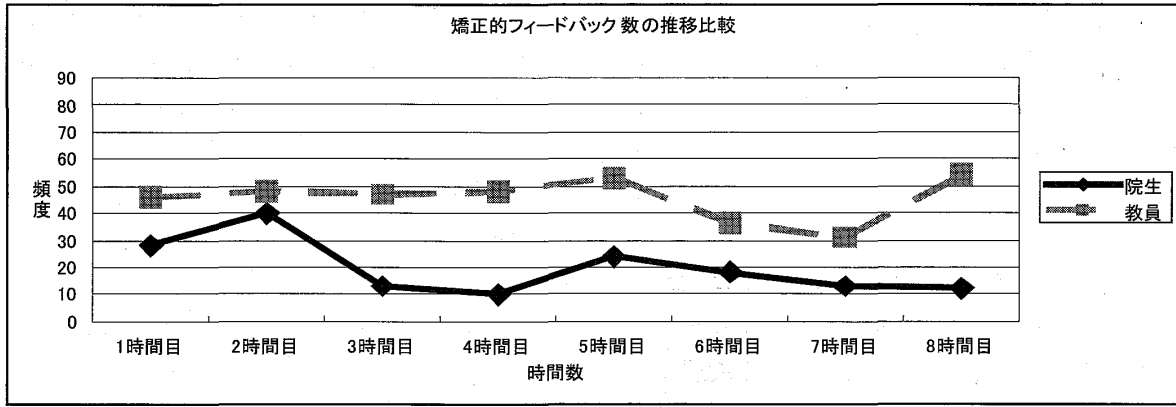
	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
院生	95	109	55	68	69	56	39	73
教員	89	93	109	102	121	95	134	114

図6 総相互作用数の推移比較



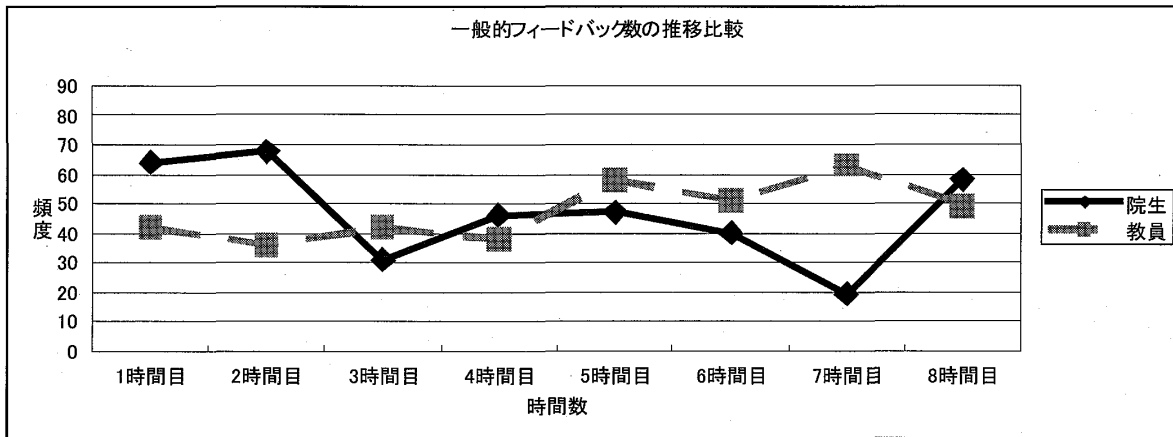
	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
院生	54	61	32	53	42	35	17	58
教員	41	38	52	44	60	54	84	58

図7 肯定的FB数の推移比較



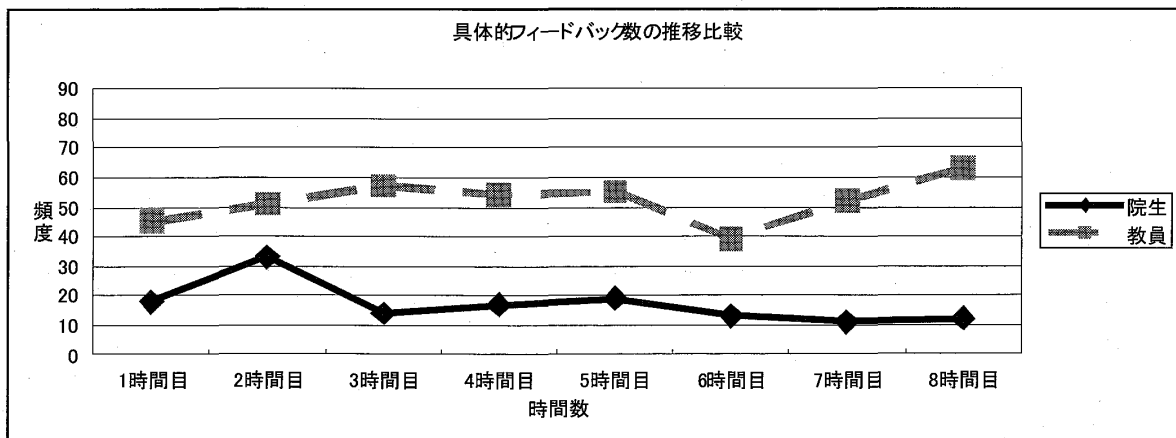
	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
院生	28	40	13	10	24	18	13	12
教員	46	48	47	48	53	36	31	54

図8 矯正的FB数の推移比較



	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
院生	64	68	31	46	47	40	19	58
教員	42	36	42	38	58	51	63	49

図9 一般的FB数の推移比較



	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
院生	18	33	14	17	19	13	11	12
教員	45	51	57	54	55	39	52	63

図10 具体的FB数の推移比較

3) 授業担当院生の反省内容の変化

授業担当院生の反省の内容については概ね次の3つの時期で区切ることができた。

①授業1～3時間目

授業の流し方や、子どもの細かい反応について事実を述べている。授業の流し方や子どもへの対応の仕方に関する混乱の指摘が多い。

②授業4～5時間目

授業の流し方に関して意図をもって授業行い、それについての事実把握、評価をしている段階。話し合いのさせ方や、個別指導のあり方について問題点を指摘し改善策のアイデアが出始める。

③授業6～8時間目

学習内容に関する問題点と原因について言及し、その改善策について述べ始める。また、次時の授業を意識しながら授業を展開するようになり、自分の授業の良かった点について評価できるようになる。

以上のように、授業担当院生の反省は、授業の流し方や児童への対応の仕方から学習内容へと反省の焦点が移行し、反省の深まりについても、現象を捉えるだけでなく、その原因や自分の働きかけとの関連で問題を捉えるようになっていった。

4) 本連携プログラムに対する附属小教員のコメント

本連携プログラムに授業者として、また授業担当院生を指導する立場としてかかわってきた附属小教員より、本連携プログラムと授業担当院生に対して次のようなコメントが寄せられた。

驚き1

大学教員、小学校教員、院生、学生といった立場や年齢の大きな差を超えて、自分自身がとても気持ちよく共同研究ができたことに、まず驚きを感じる。気持ちのよい共同研究ができた要因を思い浮かぶままに3点挙げる。

① 院生が自立している。最後は自分で判断

し、自分の責任で実践する、頑張る姿勢。

② 院生がみるみる変わる。その高まりが共有できる。

③ 私の教材研究に対してアドバイスがもらえる。

驚き2

A君の教育実習担当から始まった人間関係。当初、茶髪にピアス、「僕は香大に来るはずではなかった。」「教員にはなりません。」私が授業をしている教室の後ろで熟睡。あるいは不動産関係の専門書を読むA君。そんな「なんやこいつは」的な出会いから3年、今、A君のためであれば自分にできる協力はしたい、腹立たかわい？と思える自分の心境の変化に驚き。その要因を思いつくがままに3つ挙げる。

① A君は心があたたかい。子どもや私の気持ちが敏感に感じられる。実習の最終日、涙を流しながら「みんなに出会って教師になりたいと初めて思った。」と子どもたちに素直に語る。

② 疑問に思うことや悩みは包み隠さず、必ず相談してくる。たわいもない相談が多いが、隠さず相談しようという姿勢、真剣なその姿勢には、初心にかえらされる。

③ 自分の意見をぶつけてくる。私自身も彼の主張から刺激を受け、自分の判断に影響を受けている。今どきの23才の人は～な考え方をするんや・・・(子どもと私の中間的存在)

驚き3

A君の教師の卵としての急成長に、正直驚きを感じる。そのわけをなんとなく3つ挙げる。

① 学校に居て欲しい必要な人材である。よく動きよく働く。どのような仕事内容にかかわらず、素直な表情で快諾できる。また、やり抜こうとする。若干つめの甘い部分も感じるが。

② 子どもの心の変化を敏感に感じる。空気が読める。強引に引っ張ろうとか、押しつけようとは絶対にしない。(これが彼のよさ、持ち味)

③ 体育科を研究教科とする専門性がこの3年間でぐっと高まっている。教材や授業を分析する視点が広がっている。

私の23才当時と、今現在23才のA君を比較し、非常にうらやましく感じる。私は、大学を卒業し希望の中学校の採用試験には通らずに、中学校で講師として超自己流で荒っぽい授業をしていた。かたやA君は、院生として研究を深めるだけでなく、附属校で授業も経験できる。観ることもできる。分からないことは様々な立場の人に相談できる。自分がA君の立場にいたることができたら～なこともできたのに・・・と非常にうらやましい。体研の後輩でもあるA君に、自分の分も頑張ってもらってほしい、共に頑張っていきたい、という意味も込め、期待することを3つ。

- ① たくさん本を。
- ② いろいろな先生に相談し主張し話を聞く。
- ③ 実践的な経験（授業、クラブ、行事、学級の裏仕事・・・）を積極的に。

以上の附属小教員によるコメントから、今回の観察された授業データからは読み取れない授業担当院生の成長が確認できる。特に「今後の教員養成・免許制度のあり方について（中間報告）」で提示されている教員に求められる資質能力の「教育者としての使命感」、「教育的愛情」、「教科等に関する専門知識」、そしてこれらを基盤とした「授業の実践的指導力」について授業担当院生の成長を指摘していることがわかる。これらの成長については、ともに授業をつくり、実践する中で気づいたり、感じたりすることが多く、また、教員のもつ教職経験によってつくられた基準をもとに判断されることである。授業を外部から観察していただくだけでは確認できない成長である。附属小教員と学部教員が連携することによって、客観的に確認できる能力の成長と、実習生自身の資質の成長について把握することが可能となった。このような取り組みが大学院生の授業実践力の育成に大きく寄与するものと考えられる。

5 まとめと課題

本連携プログラムでは、現職教員と大学院生の授業実践力の差が明らかになるとともに次のような成果と課題が確認された。形成的授業評価の変容から、授業担当院生が、最終的に児童が満足する体育授業を展開できるようになった。授業の反省の中身については、その視野の広がりや深まりから、授業担当院生の成長が確認できる。しかしながら、教授技術の一つである相互作用については、十分な成果が上げられたとはいえ、授業担当院生にどのような指導を行うことが教授技術の高まりに繋がるのか検討する必要がある。

最後に、附属小教員と学部教員とが連携することによって、附属小教員のもつ経験的知見と学部教員のもつ科学的知見との両者がからみあい、大学院生の授業実践力の向上に寄与できる可能性が指摘できた。

注

- 1) 教員に求められる資質能力として、今後の教員養成・免許制度の在り方について（中間報告）では、平成9年の教育職員養成審議会第一次答申等において示された「いつの時代にも求められる資質能力」と「変化の激しい時代にあって、子どもたちに〔生きる力〕を育む観点から求められる資質能力」を示している。

しかしながら、本研究では、大学院生の体育科における教育実習プログラムについて検討する目的から、体育授業実践力を実習プログラムでその成果が期待できる「①いつの時代にも求められる資質能力」に焦点化して設定することにした。

文献

- 中央教育審議会（2005）今後の教員養成・免許制度の在り方について（中間報告）
- ICSSPE（1999）The Berlin Agenda for Action for Government Ministers http://www.bewegung.ac.at/download/22/sub0/22_1093_3340.pdf

Metzler, M & Tjeerdsma, B (2000) Assessment of Physical Education Teacher Education Programs. AAHPERD Publications. Oxon Hill.

NASPE (2002) National Standards for Beginning Physical Education Teachers. http://www.aahperd.org/naspe/pdf_files/input_beginning.pdf

Siedentop, D. and Tannehill, D. (2000) Developing Teaching Skills in Physical Education (4th ed) . Mayfield: Mountain View.

付記) 本研究は、平成17年度教育学部「学部研究開発プロジェクト」として行われた。研究組織は

以下の通りである。

研究代表者：

岡田泰士 (保健体育・教授)

研究分担者：

山神真一 (保健体育・教授)

藤原章司 (保健体育・助教授)

野崎武司 (保健体育・助教授)

石川雄一 (保健体育・助教授)

米村耕平 (保健体育・助教授)

米村博司 (附属高松小学校・教頭)

廣瀬貴志 (附属高松小学校・教諭)

長町裕子 (附属高松小学校・教諭)

本時の学習指導 (2/8)

- (1) 目標
 ・連続技モデルをポーズまで止まらずに、よりスムーズに行うことができる。(技能)
 ・友達の連続技モデルの良いところを見つけて相手に伝えることができる。(思考・判断)

(2) 学習指導過程

学習活動	自己実現に向かう児童の姿容	教師の支援						
1. 基本的な単技や、技のつなぎの練習をする。	<table border="1"> <tr> <td>(アナログ)</td> <td>(単技、前転)</td> <td>(連続技)</td> </tr> <tr> <td>アンテナの腰が曲がらなくなってきたよ</td> <td>前転は後頭部をつけるんだっとな</td> <td>止まらなくなってきたよ けと勢いを活かしたいな</td> </tr> </table>	(アナログ)	(単技、前転)	(連続技)	アンテナの腰が曲がらなくなってきたよ	前転は後頭部をつけるんだっとな	止まらなくなってきたよ けと勢いを活かしたいな	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログ、単技はただでできるだけではなく、より大きくきれいなという目標をもたせる助言をする。 ・連続技モデルの師範ビデオを見せ、イメージ化を図る。
(アナログ)	(単技、前転)	(連続技)						
アンテナの腰が曲がらなくなってきたよ	前転は後頭部をつけるんだっとな	止まらなくなってきたよ けと勢いを活かしたいな						
2. 本時の課題を確認する。	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">連続技モデルにチャレンジ! <連続技の価値></p>							
3. 連続技モデルの練習をする。	<table border="1"> <tr> <td>アナログや単技を磨くことにつながる</td> <td>連続技には単技にない楽しさ、ポイントがある</td> <td>マット運動の重要な点があり、難しい技への発展性がある</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><正確さ> <スムーズさ> <ダイナミックさ></p> <table border="1"> <tr> <td>技が増えるという目標が回ってうまくできない</td> <td>次の技のことがわからず止まってしまう</td> <td>〇〇君みたいに大きくできたらいいなあ</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><前転></p>	アナログや単技を磨くことにつながる	連続技には単技にない楽しさ、ポイントがある	マット運動の重要な点があり、難しい技への発展性がある	技が増えるという目標が回ってうまくできない	次の技のことがわからず止まってしまう	〇〇君みたいに大きくできたらいいなあ	<ul style="list-style-type: none"> ・練習方法や場を子どもたちが作ったり選んだりできるようにする。 ・前転のつまづきのある児童へ三つの場を用意する。 ・技のできばえがすばらしい子や、取り組み方が良いい子を全体で紹介しこれからの意欲化を図る。 ・学習カードをもとに反省をし、感想を発表しあったりしなから子どもたちの交流が深まるよう促す。
アナログや単技を磨くことにつながる	連続技には単技にない楽しさ、ポイントがある	マット運動の重要な点があり、難しい技への発展性がある						
技が増えるという目標が回ってうまくできない	次の技のことがわからず止まってしまう	〇〇君みたいに大きくできたらいいなあ						
4. グループ内で発表する。	<table border="1"> <tr> <td>途中で止まらずにポーズまでやりぬくことができているか</td> <td>グループの友達の良いところを見つけて伝えよう</td> </tr> </table>	途中で止まらずにポーズまでやりぬくことができているか	グループの友達の良いところを見つけて伝えよう					
途中で止まらずにポーズまでやりぬくことができているか	グループの友達の良いところを見つけて伝えよう							
5. まとめをする。	<table border="1"> <tr> <td>単技(前転)のできばえが高まってきたな</td> <td>〇〇君が良いところを教えてくださいうれしかったな</td> </tr> </table>	単技(前転)のできばえが高まってきたな	〇〇君が良いところを教えてくださいうれしかったな					
単技(前転)のできばえが高まってきたな	〇〇君が良いところを教えてくださいうれしかったな							

本時の学習指導 (1/8)

- (1) 目標
 ・単技と単技を止まらずにつなぐことができる。(技能)
 ・アナログや基本的な単技のポイントをおさえ、発表しあうことができる。(思考・判断)

(2) 学習指導過程

学習活動	自己実現に向かう児童の姿容	教師の支援			
1. 準備運動、補助運動をする。	<table border="1"> <tr> <td>友達と一緒に楽しもう!</td> <td>アンテナは背筋を伸ばすんだよね</td> <td>かえるの足打ちが5回できたよ</td> </tr> </table>	友達と一緒に楽しもう!	アンテナは背筋を伸ばすんだよね	かえるの足打ちが5回できたよ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して安全に準備するよう助言する。 ・楽しみながら活動できるようにゲーム化したり、競争化する。
友達と一緒に楽しもう!	アンテナは背筋を伸ばすんだよね	かえるの足打ちが5回できたよ			
2. 単元の課題や学習の仕方を確認する。	<table border="1"> <tr> <td>マットの上は一人しか演技しちゃうんだ</td> <td>準備、片付けはグループで協力しよう</td> <td>位置に気をつけて友達の演技を見よう</td> </tr> </table>	マットの上は一人しか演技しちゃうんだ	準備、片付けはグループで協力しよう	位置に気をつけて友達の演技を見よう	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とのかかわりを積極的に支援しながら、グループでの達成を促す。
マットの上は一人しか演技しちゃうんだ	準備、片付けはグループで協力しよう	位置に気をつけて友達の演技を見よう			
3. 基本的な技を楽しむ。(1) 既習の単技	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">技と技をつないでみよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技のポイントを確認する。つまづきのある子には坂道マットなど場の工夫をする。(発)今まで習ったポイントを思い出して、高いから低いなど変化のある組み合わせを意図して指示する。 			
(2) 技の組み合わせ	<table border="1"> <tr> <td>前転のポイントはおしりを上げることだったよ</td> <td>回転のスビードがあがってスムーズに回れたよ</td> </tr> </table>	前転のポイントはおしりを上げることだったよ	回転のスビードがあがってスムーズに回れたよ	<ul style="list-style-type: none"> ・どう感じたか学習カードから発表しあい連続技の価値を共有し、これから意欲化を図る。 	
前転のポイントはおしりを上げることだったよ	回転のスビードがあがってスムーズに回れたよ				
4. 本時のまとめをする。	<table border="1"> <tr> <td>止まらずに技をつなぐときれいだっただよ</td> <td>勢いを生かして次の技に入ることができたよ</td> </tr> </table>	止まらずに技をつなぐときれいだっただよ	勢いを生かして次の技に入ることができたよ		
止まらずに技をつなぐときれいだっただよ	勢いを生かして次の技に入ることができたよ				
	<table border="1"> <tr> <td>連続で技をやるとは難しいな</td> <td>技のポイントを思い出したらうまくできたよ</td> <td>〇〇くんはスムーズに技をつなげていたよ</td> </tr> </table>	連続で技をやるとは難しいな	技のポイントを思い出したらうまくできたよ	〇〇くんはスムーズに技をつなげていたよ	
連続で技をやるとは難しいな	技のポイントを思い出したらうまくできたよ	〇〇くんはスムーズに技をつなげていたよ			

本時の学習指導 (3/8)

(1) 目標

- ・スムーズな連続技にするには、次技を予測した技と技のつながりが大切なのがわかる。(思考・判断)
- ・連続技モデルをポーズまで止まらずに、よりスムーズに技と技をつないで行うことができる。(技能)

(2) 学習指導過程

学習活動	自己実現に向かう児童の変容	教師の支援									
1. 基本的な単技や、技のつながりの練習をする。	<table border="1"> <tr> <td>(アナログ)</td> <td>(単技)</td> <td>(連続技)</td> </tr> <tr> <td>ゆりかごが前より大きくまっすぐ回れるように気をつけよう</td> <td>前転が大きくまっすぐ回れるように気をつけよう</td> <td>ジャンプから前転にいくときに勢いを考えよう</td> </tr> </table> <p>連続技のポイントを見つければ、連続技モデルをレベルアップしよう!</p> <table border="1"> <tr> <td>アンテナからゆりかごの時の足に注目しよう</td> <td>ゆるやかなスピードがあつたらジャンプしやすい</td> <td>ジャンプから前転にいくとき勢いをいかしているかな</td> </tr> </table>	(アナログ)	(単技)	(連続技)	ゆりかごが前より大きくまっすぐ回れるように気をつけよう	前転が大きくまっすぐ回れるように気をつけよう	ジャンプから前転にいくときに勢いを考えよう	アンテナからゆりかごの時の足に注目しよう	ゆるやかなスピードがあつたらジャンプしやすい	ジャンプから前転にいくとき勢いをいかしているかな	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログ、単技はただで大きくきれいにという目標をもたせざるを得ない。 ・連続技モデルの師範ビデオを見せ、イメージ化を図る。 ・みんなが連続技のポイントを予測しあい上達できるように促す。
(アナログ)	(単技)	(連続技)									
ゆりかごが前より大きくまっすぐ回れるように気をつけよう	前転が大きくまっすぐ回れるように気をつけよう	ジャンプから前転にいくときに勢いを考えよう									
アンテナからゆりかごの時の足に注目しよう	ゆるやかなスピードがあつたらジャンプしやすい	ジャンプから前転にいくとき勢いをいかしているかな									
2. 本時の課題を確認する。	<p>連続技モデルを見つければ、連続技モデルをレベルアップしよう!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連続技モデルの師範ビデオを見せ、イメージ化を図る。 ・みんなが連続技のポイントを予測しあい上達できるように促す。 									
3. 連続技モデルの練習をする。	<table border="1"> <tr> <td>一つ一つの技が正しいからこそスムーズにつなげる</td> <td>技と技のスピードを上げてみようかな</td> <td>〇〇君みたいに大きくつなぐと見ていてすごいのかな</td> </tr> <tr> <td>アンテナやゆりかごがきれいだから上手なんだ</td> <td>やっぱり次の技にいくときのひざやうでの使いかたが大事な</td> <td>低い高いや大きいくさいに気を付けてめりばりめりばりいいかな</td> </tr> </table>	一つ一つの技が正しいからこそスムーズにつなげる	技と技のスピードを上げてみようかな	〇〇君みたいに大きくつなぐと見ていてすごいのかな	アンテナやゆりかごがきれいだから上手なんだ	やっぱり次の技にいくときのひざやうでの使いかたが大事な	低い高いや大きいくさいに気を付けてめりばりめりばりいいかな	<ul style="list-style-type: none"> ・次技が予測できたり、リズム、スピードを意識できたりする助言を観察者ができるように支援する。 ・連続技の比較を通してスピード、リズムの変化に気づくようにする。 ・連続技がスムーズにできている子を全体で紹介し、もう一度ポイントについて、活動の後の体験をもとに話ができるよう促していく。 ・学習カードをもとに反省をし、感想を発表しあつたりしながら子どもたちの見つけたポイントを整理していく。 			
一つ一つの技が正しいからこそスムーズにつなげる	技と技のスピードを上げてみようかな	〇〇君みたいに大きくつなぐと見ていてすごいのかな									
アンテナやゆりかごがきれいだから上手なんだ	やっぱり次の技にいくときのひざやうでの使いかたが大事な	低い高いや大きいくさいに気を付けてめりばりめりばりいいかな									
4. まとめをする。	<table border="1"> <tr> <td>連続技のポイントがわかってから今度は気づいたことをもとに練習しよう</td> <td>一つ一つの技の完成度も高めて技をつなぐことを考えてレベルアップしよう</td> </tr> </table>	連続技のポイントがわかってから今度は気づいたことをもとに練習しよう	一つ一つの技の完成度も高めて技をつなぐことを考えてレベルアップしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードをもとに反省をし、感想を発表しあつたりしながら子どもたちの見つけたポイントを整理していく。 							
連続技のポイントがわかってから今度は気づいたことをもとに練習しよう	一つ一つの技の完成度も高めて技をつなぐことを考えてレベルアップしよう										

本時の学習指導 (4/8)

(1) 目標

- ・連続技の評価の観点を考え、得点結果の理由を相手に説明することができる。(思考・判断)
- ・次技へのスムーズなつながりや、技の変化を考え、技の連続技をすることができる。(技能)

(2) 学習指導過程

学習活動	自己実現に向かう児童の変容	教師の支援
1. 連続技の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習カードに記入した自分のがんばりたるところ、上手になりたるところに気をつけて活動する。 ・ポーズまでしっかりやりとげる。 <p>連続技モデル練習をひらこう! みんな楽しく!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・得点を付けることにより今の自分のレベルがわかる。何を練習したらレベルアップできるかわかる。得点が低くてもへこむことはない。まだ伸びる部分があるということだし、友達と一緒にレベルアップしていかうという気持ちでつけてくれるから。だから付けるほうも取り組む。
2. 本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・得点を付けてみる。 ・師範する。何点か? なぜ? ・グループでつなぎ、単技(全体)のどちらかを見合せてわかる。 ・友達の連続技を見て何点かつけてあげて。その理由も伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・得点を付けることにより今の自分のレベルがわかる。何を練習したらレベルアップできるかわかる。得点が低くてもへこむことはない。まだ伸びる部分があるということだし、友達と一緒にレベルアップしていかうという気持ちでつけてくれるから。だから付けるほうも取り組む。
3. 試しの競技会をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・何点か聞いたり、なぜそうしたのか発問する。単技についてフィードバックを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードをもとに反省をし、感想を発表しあつたりしながら子どもたちの見つけたポイントを整理していく。
4. 振り返る。満点ビデオを見る。課題別に別れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・得点を付けてあげて、理由がうまく伝えられたかな? どこをみたらいいのかわからなかったかな? ・採点の視点を明確にしよう。 ・つなぎ、単技 ・つなぎ方のポイントってなんだろう。 ・良い まあまあ もう少し 全体 ・ビデオから比較 ・速い、高い、下にメモリをつける。というものは、がある。 ・採点の理由もきちんと伝えてあげて。 ・得点をつけてどうだった? ポイントがわかったかな。これをもとにみんながレベルアップしよう! 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードをもとに反省をし、感想を発表しあつたりしながら子どもたちの見つけたポイントを整理していく。
5. 採点を明確にし競技会をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・採点を明確にし競技会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードをもとに反省をし、感想を発表しあつたりしながら子どもたちの見つけたポイントを整理していく。
6. まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・採点を明確にし競技会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードをもとに反省をし、感想を発表しあつたりしながら子どもたちの見つけたポイントを整理していく。

本時の学習指導 (5/8)

(1) 目標

- ・腰の伸びた大きな側方倒立回転ができる。(技能)
- ・側方倒立回転のポイントをおさえ、友達と一緒に練習しながら教えあうことができる。(思考・判断・協力)

(2) 学習指導過程

学習活動	自己実現に向かう児童の姿容	教師の支援						
1. 補助運動をする。	<table border="1"> <tr> <th>(アナログ)</th> <th>(単技)</th> <th>(連続技)</th> </tr> <tr> <td>かえるの足うちが前よりも多くなり、前よりも大きくできているようになったよ。</td> <td>前転が腰の曲がり方が少なくなり、きめるようになったよ。</td> <td>つなぎやスピードを考えてやると、できばえがよくなったよ。</td> </tr> </table>	(アナログ)	(単技)	(連続技)	かえるの足うちが前よりも多くなり、前よりも大きくできているようになったよ。	前転が腰の曲がり方が少なくなり、きめるようになったよ。	つなぎやスピードを考えてやると、できばえがよくなったよ。	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログ、単技はさらさら上へのレベルに向かえるよう子どもたちの実態に応じた助言をする。 ・側方倒立回転の補助運動となるアナログを提示する。
(アナログ)	(単技)	(連続技)						
かえるの足うちが前よりも多くなり、前よりも大きくできているようになったよ。	前転が腰の曲がり方が少なくなり、きめるようになったよ。	つなぎやスピードを考えてやると、できばえがよくなったよ。						
2. 本時の課題を確認する。	<p>側方倒立回転に挑戦しよう!</p> <p>〈師範、ビデオから〉</p> <table border="1"> <tr> <td>側方倒立回転は難しい。</td> <td>どうやったらうまくできるんだろ。</td> <td>ビデオの先生みたいにやらないな。</td> </tr> </table>	側方倒立回転は難しい。	どうやったらうまくできるんだろ。	ビデオの先生みたいにやらないな。	<ul style="list-style-type: none"> ・側方倒立回転の師範ビデオを見せ、イメージ化を図る。 ・前時までの単技について確認し、新しい技に挑戦していく価値付けや構え方について理解できるように促す。 			
側方倒立回転は難しい。	どうやったらうまくできるんだろ。	ビデオの先生みたいにやらないな。						
3. 側方倒立回転の練習をする。	<table border="1"> <tr> <td>目線に気をつけて倒立のようにはやってみよう。</td> <td>手を置く位置などに気をつけてやってみよう。</td> <td>〇〇君みたいに腰があがらないとできないんだ。</td> </tr> </table>	目線に気をつけて倒立のようにはやってみよう。	手を置く位置などに気をつけてやってみよう。	〇〇君みたいに腰があがらないとできないんだ。	<ul style="list-style-type: none"> ・手や足のつく順番を押さえる。 ・つまづきのある子に対して膝びねや膝マット、アナログなどを準備する。 ・手足の形をしたフェルトやテープを下に置くことで目安となるようわかりやすくする。 			
目線に気をつけて倒立のようにはやってみよう。	手を置く位置などに気をつけてやってみよう。	〇〇君みたいに腰があがらないとできないんだ。						
4. 側方倒立回転競技会をする。	<table border="1"> <tr> <td>目線に気をつけて練習したら腰が上がりうまく横一直線に回れたよ。</td> <td>手足を置く位置がバラバラだと難しい。</td> <td>〇〇ちゃんは手足をつく順番があつていて上手にできていたよ。</td> </tr> </table>	目線に気をつけて練習したら腰が上がりうまく横一直線に回れたよ。	手足を置く位置がバラバラだと難しい。	〇〇ちゃんは手足をつく順番があつていて上手にできていたよ。	<ul style="list-style-type: none"> ・側方倒立回転の練習成果を発表、確認するため各班で発表会をする。 ・学習カードをもとに反省をし、感想を発表しあったりしながら子どもたちの見つけたポイントや達成度を確認・整理していく。 			
目線に気をつけて練習したら腰が上がりうまく横一直線に回れたよ。	手足を置く位置がバラバラだと難しい。	〇〇ちゃんは手足をつく順番があつていて上手にできていたよ。						
5. まとめをする。	<table border="1"> <tr> <td>側方倒立回転はかっこいいし、できるようになったか。</td> <td>手足をつく順番や目線に気をつけて練習したらできたよ。</td> <td>友達がみんな自分より上手にできていたよ。</td> </tr> </table>	側方倒立回転はかっこいいし、できるようになったか。	手足をつく順番や目線に気をつけて練習したらできたよ。	友達がみんな自分より上手にできていたよ。				
側方倒立回転はかっこいいし、できるようになったか。	手足をつく順番や目線に気をつけて練習したらできたよ。	友達がみんな自分より上手にできていたよ。						

本時の学習指導 (6/8)

(1) 目標

- ・技の組み合わせ方やつなぎ方を工夫して、自分らしい連続技を構成することができる。(思考・判断)
- ・オリジナル連続技として自分の能力にあった技を組み合わせて連続技ができる。(技能)

(2) 学習指導過程

学習活動	自己実現に向かう児童の姿容	教師の支援						
1. 補助運動などをする。	<table border="1"> <tr> <th>(アナログ)</th> <th>(単技)</th> <th>(連続技)</th> </tr> <tr> <td>ゆりかごが前よりも大きくスムーズにできるようになったよ。</td> <td>前転が速くできるようになって、うまく立ち上げられるようになったよ。</td> <td>つなぎ方を考えて、技の終わりをすばやくするようになったよ。</td> </tr> </table>	(アナログ)	(単技)	(連続技)	ゆりかごが前よりも大きくスムーズにできるようになったよ。	前転が速くできるようになって、うまく立ち上げられるようになったよ。	つなぎ方を考えて、技の終わりをすばやくするようになったよ。	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログ、単技はさらさら正確にできるよう子どもたちの実態に応じた助言をする。 ・既習の技を確認し、それぞれが何点であるか提示する。 ・連続技をつくるルールをみんなで話し合っ共通なものにする。
(アナログ)	(単技)	(連続技)						
ゆりかごが前よりも大きくスムーズにできるようになったよ。	前転が速くできるようになって、うまく立ち上げられるようになったよ。	つなぎ方を考えて、技の終わりをすばやくするようになったよ。						
2. 本時の課題を確認する。	<p>〇〇オリジナルをつくろう!</p> <table border="1"> <tr> <td>決め技から連続技をつくっていきう。</td> <td>静止をいれて技をきわだかせよう。</td> <td>連続技モデルをいれかえてみよう。</td> </tr> </table>	決め技から連続技をつくっていきう。	静止をいれて技をきわだかせよう。	連続技モデルをいれかえてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・うまく連続技が組めない子どもに対して、連続技モデルを組み替えてみるようヒントを与える。 ・自分がどの技をできるかやりながら一つずつ確認するよう促す。 			
決め技から連続技をつくっていきう。	静止をいれて技をきわだかせよう。	連続技モデルをいれかえてみよう。						
3. オリジナル連続技をつくる。	<table border="1"> <tr> <td>倒立前転を目立たせるためにはどう組み合わせようか。</td> <td>アンテナをどこに入れたら全体の技がよく見えるかな。</td> <td>連続技モデルを組み替えてみた感じがよい。</td> </tr> </table>	倒立前転を目立たせるためにはどう組み合わせようか。	アンテナをどこに入れたら全体の技がよく見えるかな。	連続技モデルを組み替えてみた感じがよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・助言しあったり、参考にできるところなど交流を深めてオリジナル連続技を考えていく。 ・できた連続技を発表し、相互に評価することで、組み合わせの共通価値を作る。 ・学習カードをもとに自己評価をし組み合わせを発表しあったりしながら子どもたちがオリジナル連続技について三つの観点からイメージがふくらむようにする。 			
倒立前転を目立たせるためにはどう組み合わせようか。	アンテナをどこに入れたら全体の技がよく見えるかな。	連続技モデルを組み替えてみた感じがよい。						
4. オリジナル連続技を発表する。	<table border="1"> <tr> <th>(単技)</th> <th>(つなぎ)</th> <th>(全体)</th> </tr> <tr> <td>難易度の違う技を組み入れると決めた技が目立ってかっこいいな。</td> <td>側転のつなぎのめりは後ろ向きにしたらスムーズにいきそうだな。</td> <td>静止やスピード感で速さのめりはりをもたせるようにするといいな。</td> </tr> </table>	(単技)	(つなぎ)	(全体)	難易度の違う技を組み入れると決めた技が目立ってかっこいいな。	側転のつなぎのめりは後ろ向きにしたらスムーズにいきそうだな。	静止やスピード感で速さのめりはりをもたせるようにするといいな。	
(単技)	(つなぎ)	(全体)						
難易度の違う技を組み入れると決めた技が目立ってかっこいいな。	側転のつなぎのめりは後ろ向きにしたらスムーズにいきそうだな。	静止やスピード感で速さのめりはりをもたせるようにするといいな。						
5. まとめをする。	<table border="1"> <tr> <td>自分にあつた連続技ができたから、今度は練習して完成度を高めよう。</td> <td>決め技に向けてまだうまくつなげてないからもう少し考えてみよう。</td> <td>速い遅い、高い低いというめりはりをつけた組み合わせを考えてやってみよう。</td> </tr> </table>	自分にあつた連続技ができたから、今度は練習して完成度を高めよう。	決め技に向けてまだうまくつなげてないからもう少し考えてみよう。	速い遅い、高い低いというめりはりをつけた組み合わせを考えてやってみよう。				
自分にあつた連続技ができたから、今度は練習して完成度を高めよう。	決め技に向けてまだうまくつなげてないからもう少し考えてみよう。	速い遅い、高い低いというめりはりをつけた組み合わせを考えてやってみよう。						

体育授業についての調査

月 日 ()

番号

名前 ()

◎今日の体育の授業について質問します。下の1～9について、あなたはどう思いましたか。

当てはまるものに○をつけてください。

- 1 ふかく心にのこることや、かんどうすることがありましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 2 今までできなかったこと(運動や作戦)ができるようになりましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 3 「あっ、わかった!」とか「あっ、そうか」と思ったことがありましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 4 せいっぱい、ぜんりよくをつくして運動することができましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 5 楽しかったですか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 6 自分から進んで学習することができましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 7 自分のめあてにむかって何回も練習できましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 8 友だちと協力して、なかよく学習できましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 9 友だちとおたがいに教えたり、助けたりしましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)

資料3 教師の相互作用行動の観察カテゴリーと定義

発問		主体的な意見や問題解決を要求する言語的・非言語的行動。例。「手の付き方はそれでいいかな?」「この運動の大切なところはどこかな?」
肯定的	一般的	児童の技能のできばえや応答・意見に対する具体的情報を伴わない言語的・非言語的行動(賞賛)。例。「うまい」、「よかったね」、「いいよ」、拍手する
	具体的	児童の技能のできばえや応答・意見に対する具体的情報を伴った言語的・非言語的行動(賞賛)。例。「腕の上げ方がとても良くなったね」
矯正	一般的	児童の技能のできばえや応答・意見に対する具体的情報を伴わない矯正的・修正的な言語的・非言語的行動。例。「まだ」、「もう少し」、「うーん、どうかな」、首をかしげる
	具体的	児童の技能のできばえや応答・意見に対する具体的情報を伴った矯正的・修正的な言語的・非言語的行動。例。「まだ腕の振りがたりないね」
否定的	一般的	児童の技能のできばえや応答・意見に対する具体的情報を伴わない否定的な言語的・非言語的行動。例。「だめだ」、「何考えてるんだ」、顔をしかめる
	具体的	児童の技能のできばえや応答・意見に対する具体的情報を伴った否定的な言語的・非言語的行動。例。「だめ、そんな腕の上げ方だとできないと言ってただろう」
励まし		児童の技能達成や認知行動を促進させるための言語的・非言語的行動。例。「頑張れ」、「いけ、いけ」、「さあ、しっかり」